

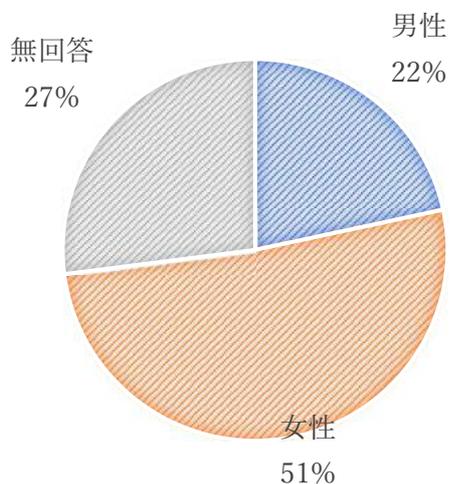
公益社団法人在宅医療助成勇美記念財団助成事業／地域包括ケアにおける医療・ケアの決定プロセスを支える切れ目のない支援体制の構築推進研修『自分らしく生きるを支える医療・ケア』実施アンケート③ まとめ

日時 2019年5月23日(木) 19:00~21:00 場所 釧路市生涯学習センター 多目的ホール

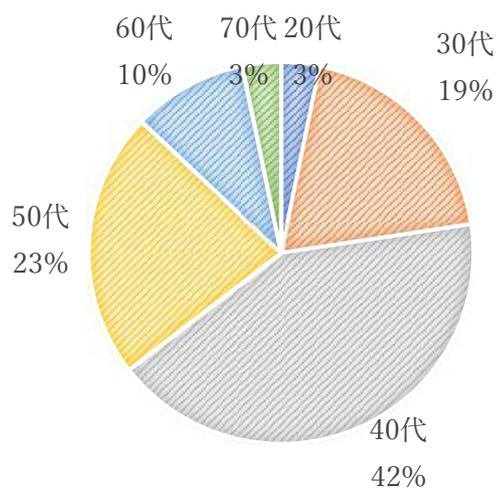
参加 46名 回答者 37件(回答率 80.4%)

1 基本情報

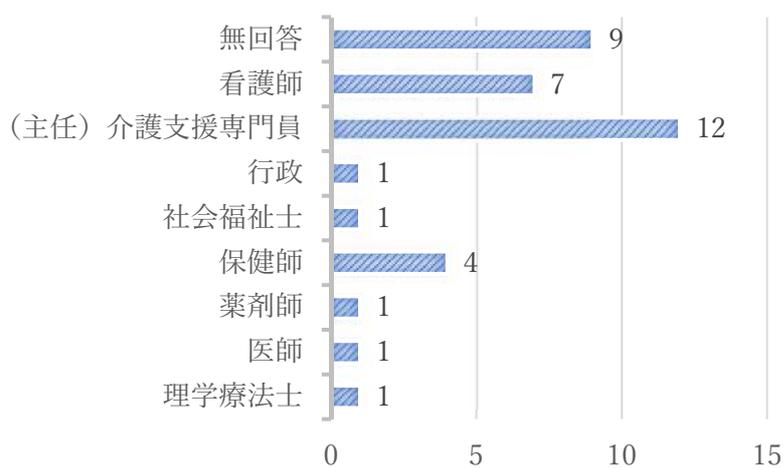
① 性別



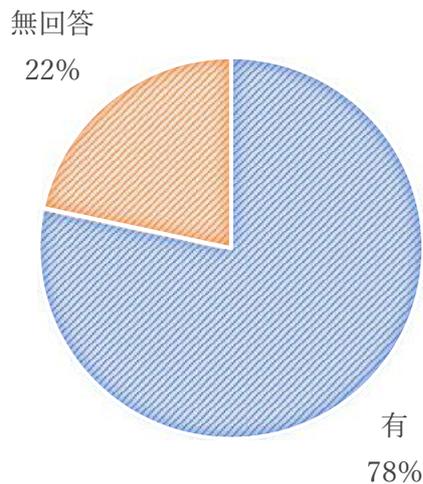
② 年代



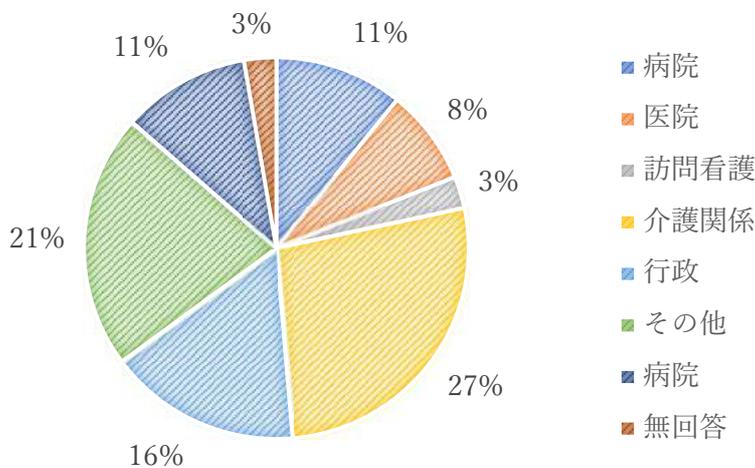
③ 職種



④ 所属



④-1 所属の内訳



2 グループワークで理解、共有できたことをお聞かせください。

① テーマ I 「課題①本人と家族の意向が食い違う」と「課題2②医療・ケアチームの意識、知識・技術が異なる」について

- それぞれの職種の立場で意向が食い違う場面においてとらえ方が違うと感じた。それは関わる状況も違うからなのかもしれないが、家族機能の状態によっても大きく左右されることがわかった。独居の場合なども含めて考えられた。
- 本人と家族の思いや考え、立場の違いがあるので話が合う方がまれであると感じた。
- ①②ともに経験的にひしひしと実感しているとのこと(グループメンバー全員)
- 日頃の業務や自分自身の介護の状況などを踏まえ意見が言えました。
- それぞれの職種で経験や考えが違う。
- 他職種での話し合いの場は必要と思った。職種により、考え方が異なっているように思うので意見交換が必要かと。
- ケアマネ、NS、MSW などの得意分野・苦手分野がある。今も本人には「告知しないで」と家族から言われたり、別の場面で本人、家族の意向を言われると困る。
- 良い家庭環境だと本人の思いが家族に伝わり、尊重されるのかなと思いました。
- 本人、家族の意向が食い違っていることが多い。施設の看取り感の違いを感じる。
- 本人様の意思を通せる機会は少ないので、しっかりしている時に知っておく。
- それぞれの立場での話には当然違いがあり、共有していくのは大事。
- 立場の違う視点での意見交換ができ、日々の実践に活かすことができると感じました。
- 情報共有がされていないことも多い。

- 様々な症例の話しを聞くことができました。
- どう生きたいかを聞く
- 医療職の方々から様々な話を聞くことができ、ケアマネとして仕事を始めたばかりの私には参考になりました。
- 各専門職種の方々と話す中で、ケースごとに異なるターミナルケースや困りごと、あるあるの話が聞けた。
- 本人の意志とは関わりなく親族の勝手な言い分で決まる事が多い。
- 本人よりも家族になりがち。・エンディングノート等で元気なうちに意思決定が出来ていれば通しやすい？・お金の問題。
- 普段からのコミュニケーションが大切。②経験者→未経験者への指導が必要。
- 家族にしか夫婦にしかわからない絆の深さは計り知れないものがある。・どのタイミングが良いのかは個々違うので難しい。・医療、居宅の連携をもっと深め本人の思いを声に出す機会を作り、受け止める場、人が必要。思いを受け止め添えるケアマネになりたいという思いを共有できた。
- 前もって本人、家族と話し合う(考え・・・思い)

② テーマⅡ「【仮説】話し合う機会があれば、本人の意思は尊重されやすいのではないか」について

- 家族機能が破たんしている場合は、家族への介入も必要であると考えた。
- 尊重されやすい可能性はある。しかし、その話し合うきっかけが難しい。
- 経験上から話し合いは大変重要。⇒尊重します。
- 話し合いはとても大切。そのための場づくり客観的な判断なども大切か。
- 答えが100%でなくても、少しでも話せる方が本人の意思が尊重されると思います。
- 全く話し合っていないよりは、尊重されるかもと思う。
- エンディングノートを書いておく。急な死を迫られるパターンは本人の意思尊重は難しい。
- ケースバイケース。本人が家に帰りたくても、家族の受入れが難しくければ、話し合うタイミングが早くても難しい・・・。
- テーマⅠと同じく、家庭環境が重要では。
- 人生会議においては、ケアマネの介入の時にキッカケ作りをするのが良いのでは？話し合いの機会を与えることができるのではないか？元気なうちに考えるきっかけを作る(家族間での情報の共有が大切)
- 話し合いに本人を入れることをまずすべき。本人抜きで話しをする現在のよくある状況を変えることから始めないとならない。と、話し合えたことはとても良かった。
- 誰がリーダーシップをとるのか。タイミングが難しい。
- 認知の人や意思があっても表示してくれない人の場合、話し合いが難しい。
- 話し合うタイミングの難しさ。
- そう思います。
- ケアマネとしてこれから色々な経験を積んでいきたいと思います。いろいろな形の意志があることをグループワークで聞いたので、頭の片隅において支援したいと思いました。
- 相手との信頼関係やタイミング、本人の本心をどう聞き出すか。
- そう思う。
- 本人の言葉として語ってもらうことで、例え叶わないことも聴いてくれる人がいることで納得できることもある。
- 話し合うのは、早いほうが良いのでは。
- 見通しが難しい。早すぎると落ち込む可能性(本人、家族)
- 機会があっても家族の意見が重い時もある。
- 本人が自分の思いを声に出せる場所を作ることがむずかしい。
- 言いにくいこともあると思うが、声に出すこと、沈黙等で相手に伝わる事があると思う。

③ テーマⅢ「医療・ケアチームが日頃の実践で行うべきこと」について

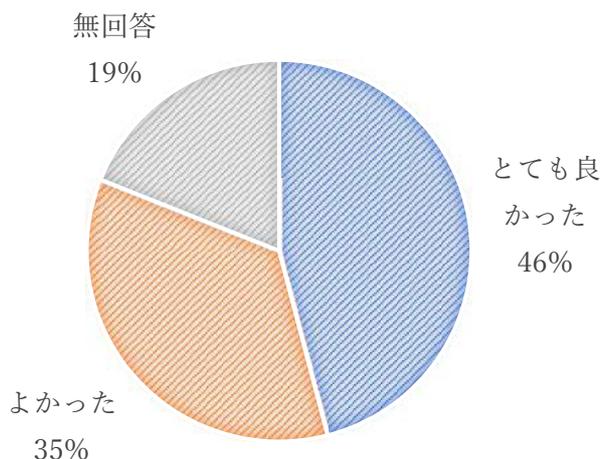
- 日々、本人の意志を尊重しながら関わっているケアラーさん達を支える仕組みづくりが必要だと思った。
- タイミングをみて家族へ助言する。ケアマネ契約の時など。
- 情報共有や顔のみえる連携は進んできて、必要、大切と考えている人が増えてきている。しかし、考え方のズレ

はあるので難しい部分もある。

- 本人を交えての話し合い。
- なかなか口に出しにくいことではあるが、ひとりひとりが意識していくことが大事かと思いました。
- 笑顔で関わるのが大事。本人、家族の気持ちが揺らぐものだと心得ておくこと。〇〇だと決めつけない。
- 在宅と医療の情報共有。
- 会話が大切。
- 医療スタッフ、ケアマネの立場で実践すべきことを話し合えたので、よりよい連携に活かしていけると思いました。
- 話し合う場を早めにもつ→考えるキッカケ。
- 本人の意向を日頃から確認しておくことが大切。
- 患者さんを多方面からみる事。
- ”どう生きるか”=”どう死にたいのか？”
- 共通の言葉、同じ話をしても聞いてもその人その人で意味が異なることをチームが理解することで各人言葉に出す必要がある。
- 笑顔
- 患者さんと接する時は笑顔で！ 勉強会に参加して顔合わせをしていく！！決めつけをしない。
- どう生きたいか。どう死にたいかを定期的に聴いていく。
- 医療と在宅スタッフがもっと思いを共有することが大切。時間はないけど、専門職が同じ思いにならないと、患者さんや家族にアプローチできない。

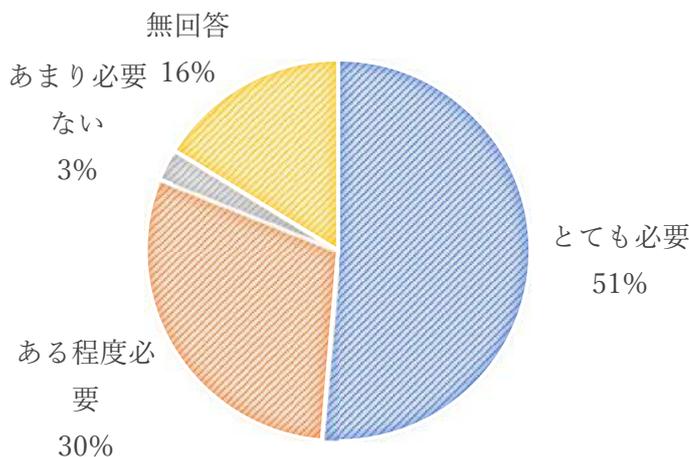
3 今日全体の感想をお聞かせください。当てはまるもの1つに○を付けてください。

- ① とても良かった ② 良かった ③ あまり良くない ④ 良くなかった



4 「人生会議」の必要性について、あなたの考え方に当てはまるものを1つに○を付けてください。

- ① とても必要 ② ある程度必要 ③ あまり必要ない ④ 必要ない



5 本日の研修会で共有した「スローガン」を、これから地域で広め、共有化していくことで、どのような効果が期待できると思いますか。

- 本当に決めなければいけない時のもめごとが減る？
- 笑顔で気軽に話せる環境が整えばとても良いと思います。
- 専門職だけではなく、住民みんな、気軽に当たり前のこととして、話せるのではないかと思います。そうすると本人らしい生き方を支えられると思いました。
- 話し合うことが、当たり前の世の中になってもらいたい。
- 自分がどう、どこで生きていかなどを日頃から考える機会が増えるのではないか。一本人の自己決定が充足される効果。
- 自分の人生、家族の最期をタブーとせず、話し合える機会が作られるのではないか？
- なかなか最期をみながら毎日を過ごす機会は少ないと思う。何故なら、重すぎて、言葉にできないから。でも、最期をどう迎えるか、皆で話し合う事でどんな時もジタバタせずに向き合えたらその機会は大切にしていきたいと思いました。ケアマネの役割は大切だなあとその人の生活歴を踏まえた今日を皆に伝える役割として、改めて重大な事を確認していきたい。
- 語り合う風土になれるかもしれない。地域包括ケアシステムの実現。
- 個人個人の参画。伝え合おう自分の最期
- ちょっと目にした人が考えてくれたらいいなと思います。
- どう生きたいのか？＝「人生会議」
- 自らのこととして、日常的な話題として出すことができると、住民からのニーズに基づいたサービス体制がもっと整うと思います。
- 他者のことを考えないで自分の思いを語れる支援者が必要。
- 家族と話し合う機会の増加。自分の最期を考える機会。
- 死期に近い方だけでなく、若い頃より死生観を考えることができるようになる。
- 元気うちに、笑って終活することが当たりまえ。という時代がきたらいいなと思います。
- その人が納得できる人生。

6 この研修会を通して、地域包括ケアにおける医療・ケアの決定プロセスを支える切れ目のない支援体制の構築の必要性について、あなたの考え方に当てはまるものを1つに○を付けてください。

- ① とても必要 ② ある程度必要 ③ あまり必要ない ④ 必要ない

